ひめしん景況レポート

中小企業景気動向調査 No.181

（2020 年 12 月期調査）

＜調　査　要　項＞

・調査時点　　２０２０年　１２月上旬
・調査対象期間　　２０２０年１０－１２月実績
　　２０２１年　１－　３月見通し
・調査対象企業　　当金庫取引先　４５０社
　　有効回答数　　４４６社（有効回答率99.1%）
・業種別企業数　　製造業　１３６社、 卸売業　６７社
　　小売業　９３社、 運輸･ｻｰﾋﾞｽ業　５７社
　　建設業　６７社、 不動産業　２６社
・調査方法　　営業店調査員による面接聞き取り調査

この調査では景況判断の基準として、ＤＩ（Diffusion Index. 拡散指数)による分析方法を採用しています。これは各質問項目で増加（上昇、好転など）が占める構成比と減少（下降、悪化など）が占める構成比との差を時系列的に観察することにより景況を判断する方法。

姫　路　信　用　金　庫

１０―１２ 月 の 概 況

●播磨地方の景況感は大幅改善

播磨地方の 2020 年 10-12 月期の景況は、業況が「良い」とした企業は全体の 7.8%で前期（2020 年 7-9 月期 4.5%）から 3.3 ﾎﾟｲﾝﾄ上昇、「悪い」は 48.2%で前期（同 60.6%）から 12.4 ﾎﾟｲﾝﾄ低下。その結果、全業種総合の業況判断 DI は、前期ﾏｲﾅｽ 56 から 16 ﾎﾟｲﾝﾄ改善の**ﾏｲﾅｽ 40** となった。

業種別で見ると、製造業の業況判断 DI は、前期ﾏｲﾅｽ 62 から 13 ﾎﾟｲﾝﾄ改善の**ﾏｲﾅｽ 49** と 2 四半期連続の改善、非製造業の業況判断 DI は、前期ﾏｲﾅｽ 54 から 17 ﾎﾟｲﾝﾄ改善の**ﾏｲﾅｽ 37** と 2 四半期連続の改善となった。

●来期は横這いの見通し

来期（2021 年 1-3 月期）の全業種総合の予想業況判断 DI は、今期ﾏｲﾅｽ 40 から横這いの**ﾏｲﾅｽ 40** となる見通しである。

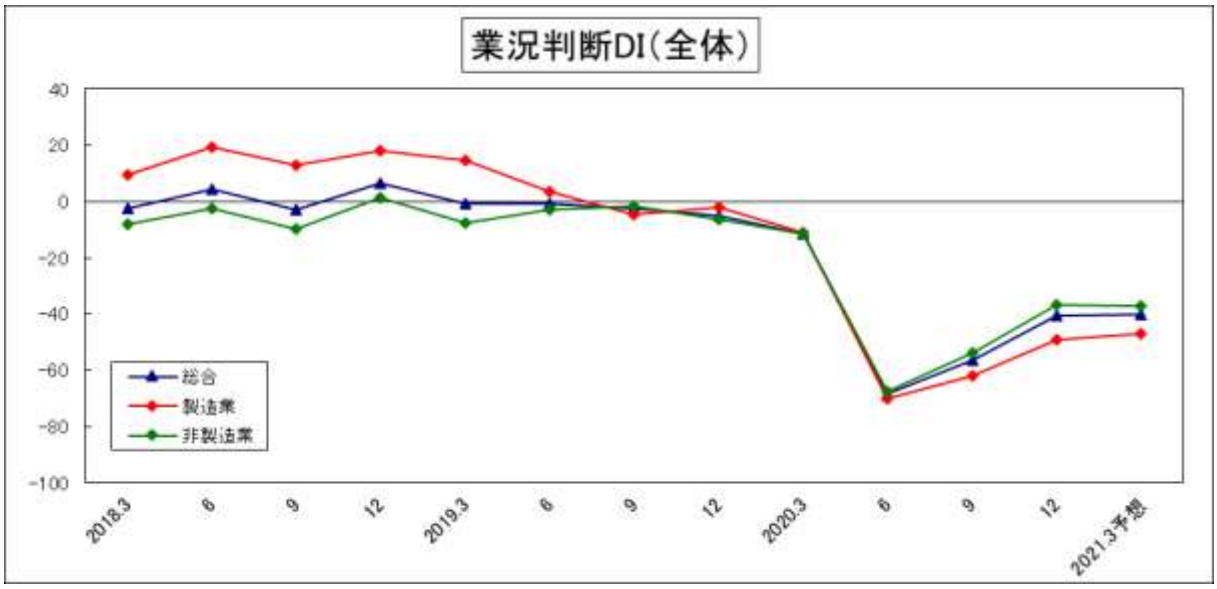
業種別に見ると、製造業の予想業況判断 DI は今期ﾏｲﾅｽ 49 から 2 ﾎﾟｲﾝﾄ改善の**ﾏｲﾅｽ 47**、非製造業は今期ﾏｲﾅｽ 37 から横這いの**ﾏｲﾅｽ 37** となる見通しである。

■最近の業況判断ＤＩの推移

・業況判断 DI（総合）

業種＼調査時期	3期前	前々期	前期	今期	来期（予想）
	2020/1-3期	2020/4-6期	2020/7-9期	2020/10-12期	2021/1-3期
総合 (446社)	-11 （ ↘ ）	-68 （ ↘ ）	-56 （ ↗ ）	-40 （ ↗ ）	-40 （ →）
製造業 (136社)	-11 （ ↘ ）	-70 （ ↘ ）	-62 （ ↗ ）	-49 （ ↗ ）	-47 （ ↗ ）
非製造業 (310社)	-11 （ ↘ ）	-68 （ ↘ ）	-54 （ ↗ ）	-37 （ ↗ ）	-37 （ →）

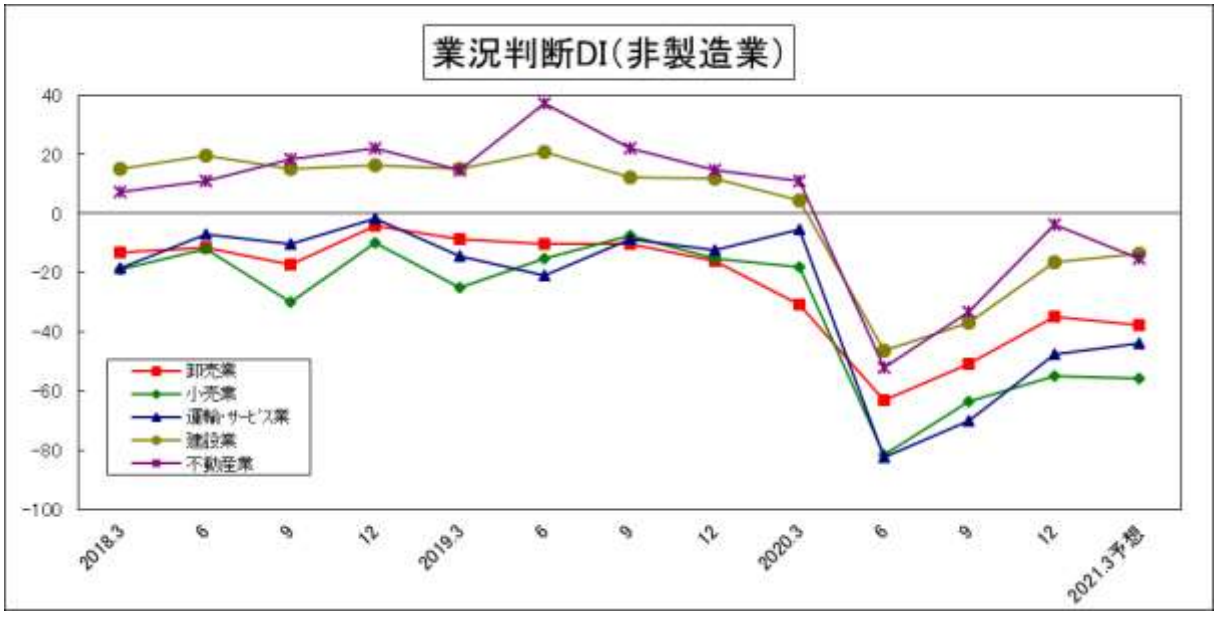
※企業数は今期調査の数字



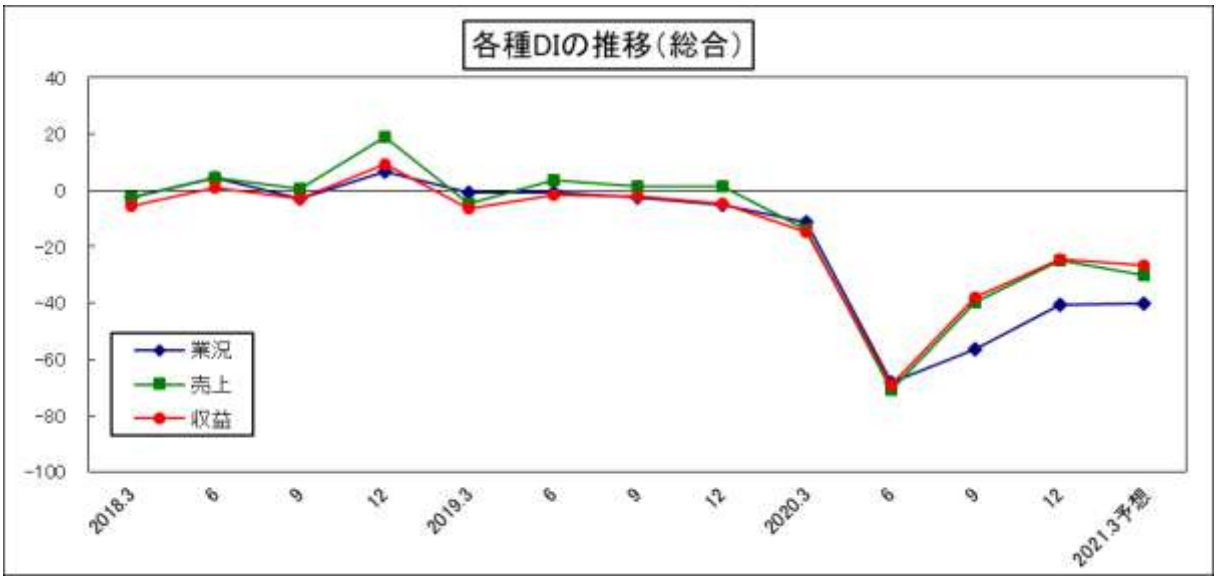
・業況判断 DI（非製造業）

業種＼調査時期	3期前	前々期	前期	今期	来期（予想）
	2020/1-3期	2020/4-6期	2020/7-9期	2020/10-12期	2021/1-3期
卸売業 (67社)	-31 （ ↘ ）	-63 （ ↘ ）	-51 （ ↗ ）	-35 （ ↗ ）	-38 （ ↘ ）
小売業 (93社)	-18 （ ↘ ）	-82 （ ↘ ）	-63 （ ↗ ）	-55 （ ↗ ）	-56 （ ↘ ）
運輸・ｻｰﾋﾞｽ業 (57社)	-5 （ ↗ ）	-82 （ ↘ ）	-70 （ ↗ ）	-47 （ ↗ ）	-44 （ ↗ ）
建設業 (67社)	5 （ ↘ ）	-46 （ ↘ ）	-37 （ ↗ ）	-16 （ ↗ ）	-13 （ ↗ ）
不動産業 (26社)	11 （ ↘ ）	-52 （ ↘ ）	-33 （ ↗ ）	-4 （ ↗ ）	-15 （ ↘ ）

※企業数は今期調査の数字



■業況判断・売上・収益の各種ＤＩの推移



製　造　業（136 社）

●2 四半期連続の改善

製造業は、業況が「良い」とした企業は全体の 6.6%で前期（5.1%）から 1.5 ﾎﾟｲﾝﾄ上昇、「悪い」は 55.9%で前期（66.9%）から 11 ﾎﾟｲﾝﾄ低下。業況判断 DI は前期ﾏｲﾅｽ 62 から 13 ﾎﾟｲﾝﾄ改善の**ﾏｲﾅｽ 49** となった。

●21 業種中、10 業種で改善、7 業種で悪化

一般機械器具、食料品など 10 業種で改善、金属製品、建築用金属製品など 7 業種で悪化した。

21 業種中・・・業況改善　10 業種 ／ 業況横這　4 業種 ／ 業況悪化　7 業種

主な業種 ＼ 調査時期	3期前	前々期	前期	今期	来期（予想）
	2020/1-3期	2020/4-6期	2020/7-9期	2020/10-12期	2021/1-3期
金属製品　(17社)	13 （↗）	-58 （↘）	-69 （↘）	-71 （↘）	-76 （↘）
一般機械器具　(17社)	-31 （↘）	-50 （↘）	-69 （↘）	-47 （↗）	-35 （↗）
食料品　(14社)	13 （↘）	-86 （↘）	-47 （↗）	-29 （↗）	-36 （↘）
輸送用機械器具　(11社)	8 （↗）	-70 （↘）	-75 （↘）	-36 （↗）	-36 （→）
電気機械器具　(8社)	-57 （↗）	-57 （→）	-86 （↘）	-38 （↗）	-38 （→）
皮革製品　(8社)	-25 （→）	-100 （↘）	-100 （→）	-75 （↗）	-88 （↘）
建築用金属製品　(8社)	13 （↘）	-71 （↘）	-63 （↗）	-88 （↘）	-63 （↗）
プレス・メッキ　(7社)	14 （↘）	-67 （↘）	-29 （↗）	-14 （↗）	-14 （→）
繊維製品（靴下）　(6社)	-50 （↘）	-83 （↘）	-67 （↗）	-67 （→）	-67 （→）
窯業・土石　(5社)	33 （↗）	-25 （↘）	-20 （↗）	0 （↗）	0 （→）
出版・印刷　(5社)	-67 （↘）	-100 （↘）	-83 （↗）	-60 （↗）	-40 （↗）

●来期も改善の見通し

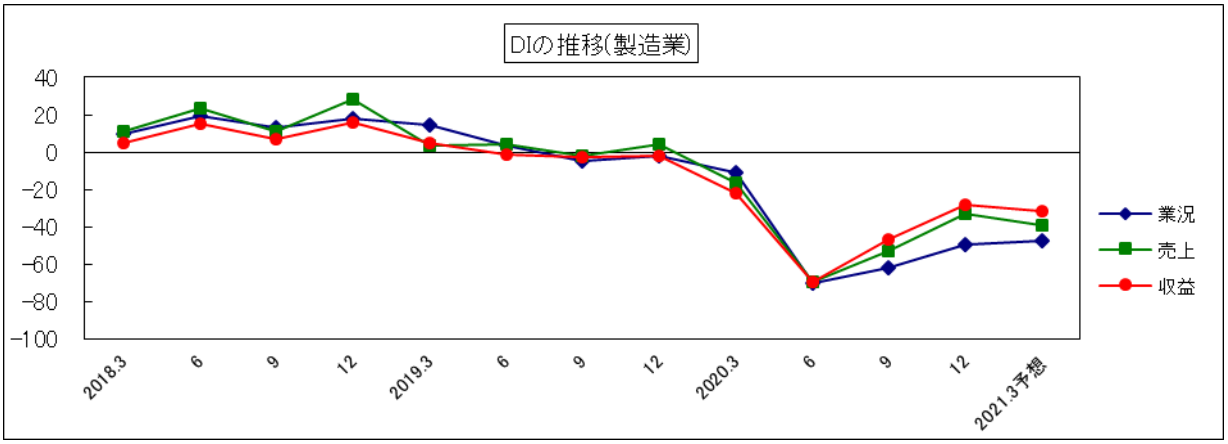
来期は一般機械器具、建築用金属製品など 4 業種で改善、金属製品、食料品など 4 業種で悪化と予想しており、予想業況判断 DI は今期ﾏｲﾅｽ 49 から**ﾏｲﾅｽ 47** へ 2 ﾎﾟｲﾝﾄ改善する見通し。

調査員のコメント

・イベントの中止が相次ぎ 3 割の減収が続いている。また、市況の低迷により同業種間での競争が激化しており、単価引き下げ要請もあり、厳しい状況が続く見込み。（印刷）

・コロナの影響大きく売上減少するが、新製品等の開発、新しい販路を模索するなど売上回復に向けた取り組みに注力している。（皮革製品）

・外注委託していた作業を自社で行うなど経費削減を図り、利益改善計画中。他社の倒産などにより受注は増加している。（一般機械器具）



卸　売　業（67 社）

●2 四半期連続の改善

卸売業は、業況が「良い」とした企業は全体の 13.0%で前期（5.8%）から 7.2ﾎﾟｲﾝﾄ上昇、「悪い」は 47.8%で前期（56.5%）から 8.7ﾎﾟｲﾝﾄ低下。業況判断 DI は前期ﾏｲﾅｽ 51 から 16ﾎﾟｲﾝﾄ改善しﾏｲﾅｽ 35 となった。

●9 業種中、4 業種で改善、3 業種で悪化

機械器具、農畜産物・水産物など 4 業種で改善、飲食料品、金属材料など 3 業種で悪化した。

9 業種中・・・業況改善　4 業種 ／ 業況横這　2 業種 ／ 業況悪化　3 業種

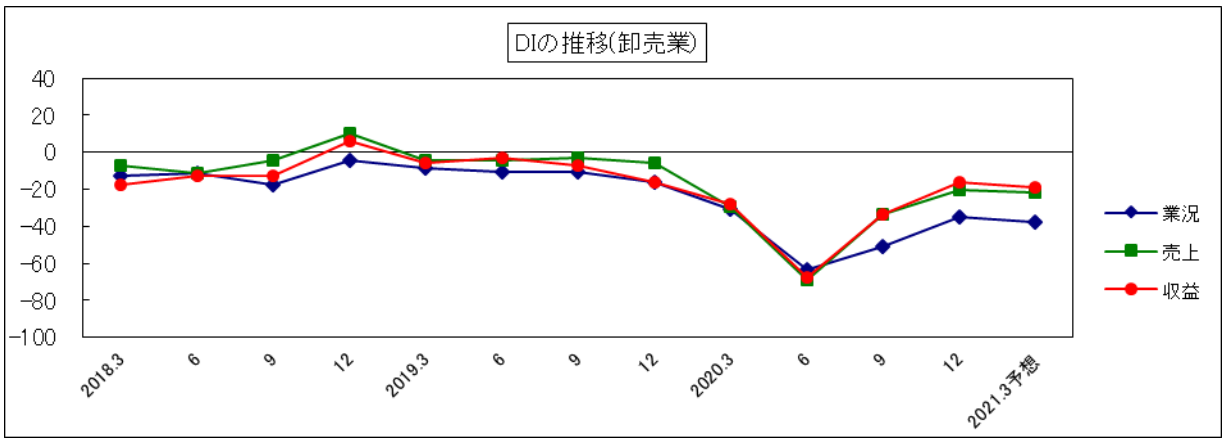
業種 ＼ 調査時期	3期前	前々期	前期	今期	来期（予想）
	2020/1-3期	2020/4-6期	2020/7-9期	2020/10-12期	2021/1-3期
機械器具　（15社）	-44（↘）	-41（↗）	-59（↘）	-40（↗）	-40（→）
農畜産物・水産物　（11社）	-64（↘）	-70（↘）	-55（↗）	-27（↗）	-27（→）
建築材料　（9社）	-20（↘）	-56（↘）	-67（↘）	-22（↗）	-11（↗）
飲食料品　（6社）	-14（↘）	-100（↘）	-57（↗）	-67（↘）	-67（→）
金属材料　（6社）	-50（↘）	-67（↘）	-33（↗）	-83（↘）	-67（↗）
化学製品　（4社）	33（→）	-75（↘）	-67（↗）	25（↗）	-50（↘）
衣服身回品　（4社）	-33（→）	-75（↘）	33（↗）	-75（↘）	-75（→）
再生資源　（3社）	33（↗）	-100（↘）	-67（↗）	-67（→）	-33（↗）
家具建具じゅう器　（1社）	-50（→）	-50（→）	-100（↘）	-100（→）	-100（→）
その他　（8社）	-14（↘）	-40（↘）	-29（↗）	13（↗）	-13（↘）

●来期は悪化の見通し

来期は建築材料、金属材料など 3 業種で改善、化学製品で悪化と予想しており、予想業況判断 DI は今期ﾏｲﾅｽ 35 からﾏｲﾅｽ 38 へ 3ﾎﾟｲﾝﾄ悪化する見通しである。

調査員のコメント

・コロナの影響大きく、一部工場の閉鎖を検討。また、販路は中国向けが主力だったが現在は南米にシフトし売上確保に注力している状況。（化学製品）
・米中貿易摩擦の長期化を受けて鉄鋼需要低迷しており、加えてコロナの影響で売上減少。自動車関連中心に需要は回復傾向にあるが当面は厳しい状況が続く見込み。（金属材料）
・コロナ禍でホームセンター向け販売が増加し、売上はやや増加。（建築材料）



小　売　業（93 社）

●2 四半期連続の改善

小売業は、業況が「良い」とした企業は全体の 5.4%で前期（3.2%）から 2.2 ﾎﾟｲﾝﾄ上昇、「悪い」は 60.2%で前期（66.7%）から 6.5 ﾎﾟｲﾝﾄ低下。業況判断 DI は前期ﾏｲﾅｽ 63 から 8 ﾎﾟｲﾝﾄ改善しﾏｲﾅｽ 55 となった。

●12 業種中、7 業種で改善、1 業種で悪化

飲食料品、衣服身回品など 7 業種で改善、医薬品・化粧品で悪化した。

12 業種中・・・業況改善　7 業種 ／ 業況横這　4 業種 ／ 業況悪化　1 業種

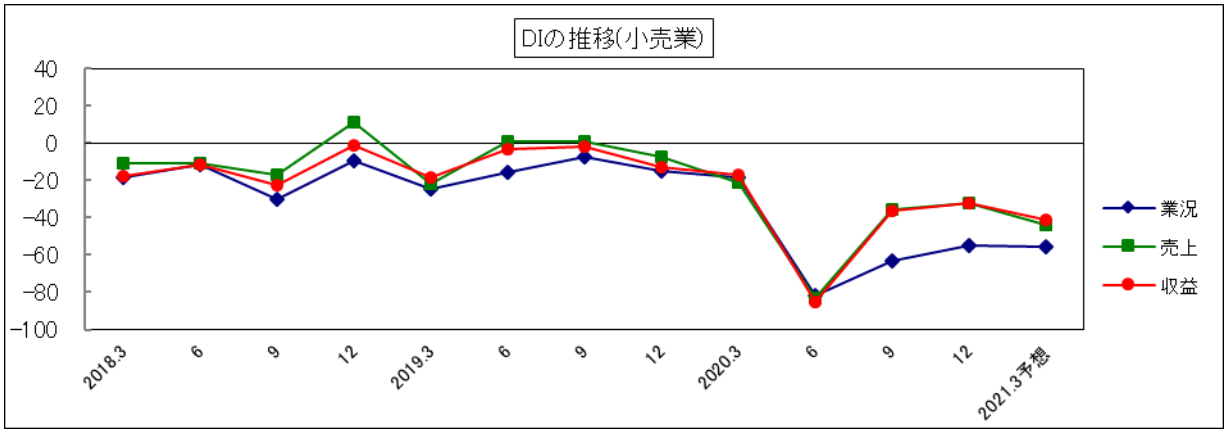
業種＼調査時期	3期前	前々期	前期	今期	来期（予想）
	2020/1-3期	2020/4-6期	2020/7-9期	2020/10-12期	2021/1-3期
飲食料品　(21社)	-20 （ ↘ ）	-86 （ ↘ ）	-67 （ ↗ ）	-57 （ ↗ ）	-71 （ ↘ ）
衣服身回品　(15社)	-27 （ ↘ ）	-93 （ ↘ ）	-93 （ → ）	-87 （ ↗ ）	-67 （ ↗ ）
飲食店　(11社)	-8 （ ↗ ）	-92 （ ↘ ）	-75 （ ↗ ）	-55 （ ↗ ）	-64 （ ↘ ）
自動車　(9社)	0 （ ↗ ）	-78 （ ↘ ）	-50 （ ↗ ）	-22 （ ↗ ）	-11 （ ↗ ）
スーパー・コンビニ　(8社)	-25 （ ↘ ）	-38 （ ↘ ）	-38 （ → ）	-38 （ → ）	-25 （ ↗ ）
ガソリン　(7社)	-29 （ ↘ ）	-67 （ ↘ ）	-71 （ ↘ ）	-71 （ → ）	-71 （ → ）
書籍・文具　(4社)	0 （ ↘ ）	-67 （ ↘ ）	-40 （ ↗ ）	-25 （ ↗ ）	-50 （ ↘ ）
家電機器　(4社)	0 （ ↘ ）	-100 （ ↘ ）	-50 （ ↗ ）	-25 （ ↗ ）	0 （ ↗ ）
医薬品・化粧品　(4社)	-25 （ → ）	-75 （ ↘ ）	-50 （ ↗ ）	-75 （ ↘ ）	-100 （ ↘ ）
娯楽用品　(2社)	0 （ ↗ ）	-100 （ ↘ ）	0 （ ↗ ）	50 （ ↗ ）	0 （ ↘ ）
時計・眼鏡　(2社)	0 （ → ）	-100 （ ↘ ）	-100 （ → ）	-100 （ → ）	-100 （ → ）
木材建築材料　(1社)	0 （ → ）	-100 （ ↘ ）	0 （ ↗ ）	0 （ → ）	0 （ → ）
その他　(5社)	-75 （ → ）	-100 （ ↘ ）	-50 （ ↗ ）	-80 （ ↘ ）	-80 （ → ）

●来期は悪化の見通し

来期は衣服身回品、自動車など 4 業種で改善、飲食料品、飲食店など 5 業種で悪化と予想しており、予想業況判断 DI は今期ﾏｲﾅｽ 55 からﾏｲﾅｽ 56 へ 1 ﾎﾟｲﾝﾄ悪化する見通しである。

調査員のコメント

・コロナの影響を受け、売上減少。ネット販売を行うなど売上確保目指して努力し、一定の効果が出ている。（飲食料品）
・公立学校の教材販売は安定しているが、電子書籍の増加に伴い一般向けの販売については売上減少しており、今後の見通しは厳しい。（書籍・文具）
・一時的にエアコン等の家電製品の売上が増加していたものの現在は減少している。（家電機器）



運輸・サービス業（57社）

●2四半期連続の改善

運輸・サービス業は、業況が「良い」とした企業は全体の3.5%で前期（1.8%）から1.7ﾎﾟｲﾝﾄ上昇、「悪い」は50.9%で前期（71.9%）から21ﾎﾟｲﾝﾄ低下。業況判断DIは前期ﾏｲﾅｽ70から23ﾎﾟｲﾝﾄ改善し**ﾏｲﾅｽ47**となった。

●7業種中、5業種で改善、1業種で悪化

運輸業、自動車整備・駐車場など5業種で改善、修理業で悪化となった。

7業種中・・・業況改善　5業種 ／ 業況横這　1業種 ／ 業況悪化　1業種

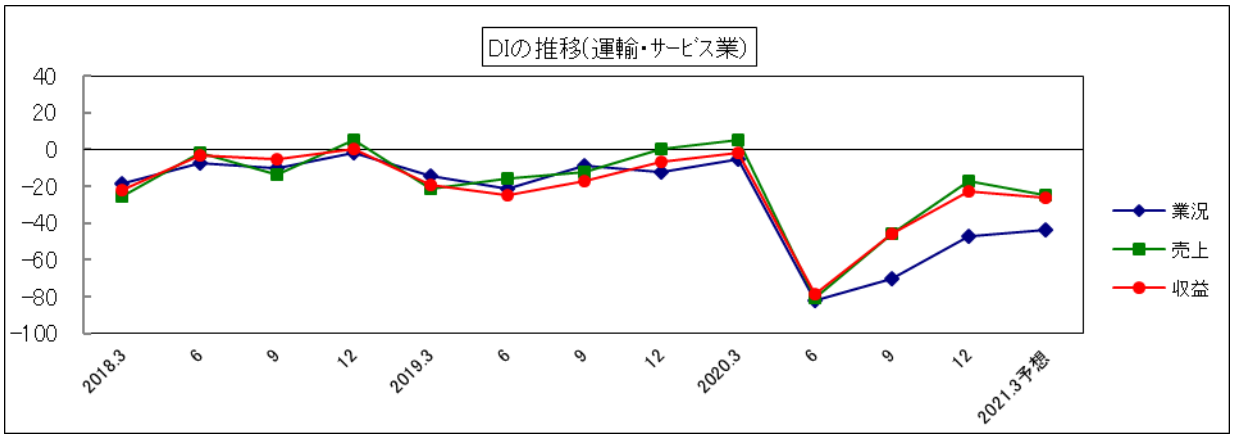
業種＼調査時期	3期前	前々期	前期	今期	来期（予想）
	2020/1-3期	2020/4-6期	2020/7-9期	2020/10-12期	2021/1-3期
運輸業　(15社)	0（↗）	-88（↘）	-71（↗）	-67（↗）	-67（→）
自動車整備・駐車場　(9社)	0（↗）	-70（↘）	-70（→）	-44（↗）	-44（→）
ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ・理容・美容　(7社)	0（↗）	-100（↘）	-71（↗）	-57（↗）	-43（↗）
修理業　(3社)	0（→）	-67（↘）	-67（→）	-100（↘）	-100（→）
情報ｻｰﾋﾞｽ・調査・広告　(3社)	-33（↘）	-100（↘）	0（↗）	0（→）	-33（↘）
物品賃貸　(3社)	-50（→）	-100（↘）	-100（→）	-67（↗）	-67（→）
旅館宿泊所　(2社)	0（↗）	-100（↘）	-100（→）	-50（↗）	-50（→）
その他　(15社)	0（→）	-69（↘）	-77（↘）	-20（↗）	-7（↗）

●来期も改善の見通し

来期はｸﾘｰﾆﾝｸﾞ・理容・美容で改善、情報ｻｰﾋﾞｽ・調査・広告で悪化と予想しており、予想業況判断DIは今期ﾏｲﾅｽ47から**ﾏｲﾅｽ44**へ3ﾎﾟｲﾝﾄ改善する見通しである。

調査員のコメント

・コロナ禍による学校行事、結婚式等イベントの中止や延期などが多く、売上減少。再開時期が分からず、業況も見通しが立たない。（その他）
・看護師、医師の人手不足が起こっている。（その他）
・コロナの影響の他、従業員の高齢化、人材確保難等の内部要因も重なり非常に厳しい状況。事業策定計画が急務である。（運輸業）



建　設　業（67 社）

●2 四半期連続の改善

建設業は、業況が「良い」とした企業は全体の 10.4%で前期（4.6%）から 5.8 ﾎﾟｲﾝﾄ上昇、「悪い」は 26.9%で前期（41.5%）から 14.6 ﾎﾟｲﾝﾄ低下。業況判断 DI は前期ﾏｲﾅｽ 37 から 21 ﾎﾟｲﾝﾄ改善しﾏｲﾅｽ 16 となった。

●3 業種中、全業種で改善

総合工事、職別工事など全業種で改善した。

3 業種中・・・業況改善　3 業種 ／ 業況横這　0 業種 ／ 業況悪化　0 業種

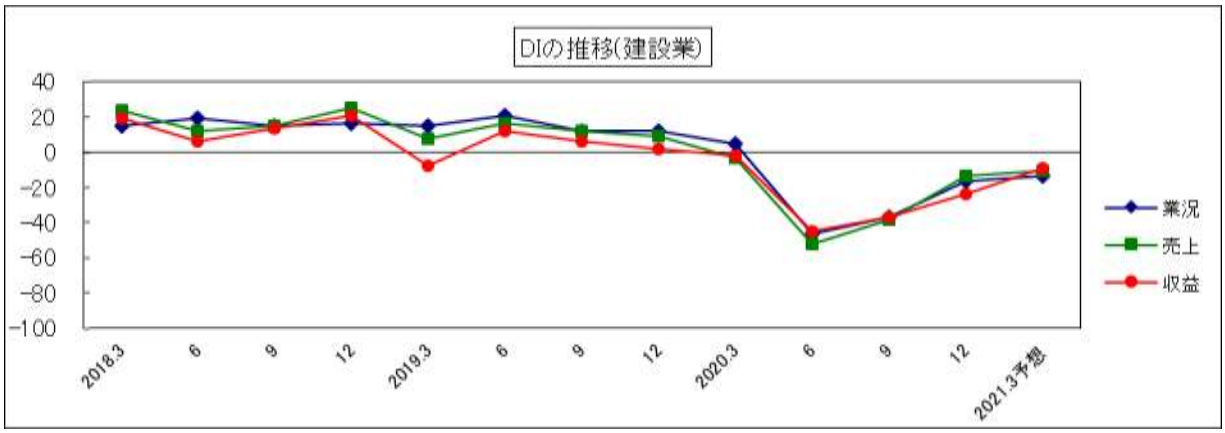
業種＼調査時期		3期前	前々期	前期	今期	来期（予想）
		2020/1-3期	2020/4-6期	2020/7-9期	2020/10-12期	2021/1-3期
総合工事	(31社)	7 （ ↗ ）	-63 （ ↘ ）	-40 （ ↗ ）	-13 （ ↗ ）	-23 （ ↘ ）
職別工事	(21社)	5 （ ↘ ）	-30 （ ↘ ）	-35 （ ↘ ）	-24 （ ↗ ）	-10 （ ↗ ）
設備工事	(15社)	0 （ ↘ ）	-33 （ ↘ ）	-33 （ →）	-13 （ ↗ ）	0 （ ↗ ）

●来期も改善の見通し

来期は職別工事、設備工事の 2 業種で改善、総合工事で悪化と予想しており、予想業況判断 DI は今期ﾏｲﾅｽ 16 からﾏｲﾅｽ 13 へ 3 ﾎﾟｲﾝﾄ改善する見通しである。

調査員のコメント

・コロナ禍で、自粛中に改装を行う飲食店等が多く、業況旺盛。外注先が足りないほどの受注があり、業況不安なし。（職別工事）
・コロナの影響で工事遅延の状況が多く、年度末までのタイムスケジュールがひっ迫。また人材不足もあり育成、獲得にも注力したい。（職別工事）
・官公庁からの受注を主体としておりコロナの影響はそれほど大きくない。業界内での人手不足が進み人材確保が課題である。（設備工事）



不　動　産　業　（26 社）

●2 四半期連続の大幅改善

不動産業は、業況が「良い」とした企業は全体の 11.5%で前期（7.4%）から 4.1 ﾎﾟｲﾝﾄ上昇、「悪い」は 15.4%で前期（40.7%）から 25.3 ﾎﾟｲﾝﾄ低下。業況判断 DI は前期ﾏｲﾅｽ 33 から 29 ﾎﾟｲﾝﾄ改善しﾏｲﾅｽ 4 となった。

●4 業種中、2 業種で改善、2 業種で横這い

建売・土地売買、不動産代理・仲介で改善、貸事務所・土地賃貸、貸家・貸間で横這いとなった。

4 業種中・・・業況改善　2 業種 ／ 業況横這　2 業種 ／ 業況悪化　0 業種

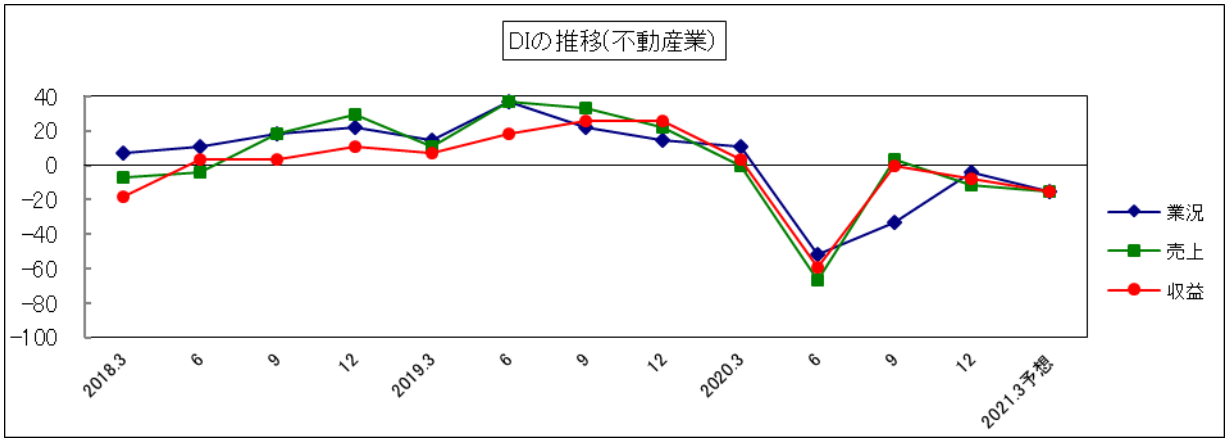
業種 ＼ 調査時期	3期前	前々期	前期	今期	来期（予想）
	2020/1-3期	2020/4-6期	2020/7-9期	2020/10-12期	2021/1-3期
建売・土地売買　(12社)	7 （ →）	-43 （ ↘ ）	-21 （ ↗ ）	8 （ ↗ ）	-8 （ ↘ ）
不動産代理・仲介　(9社)	14 （ ↘ ）	-57 （ ↘ ）	-63 （ ↘ ）	-11 （ ↗ ）	-22 （ ↘ ）
貸事務所・土地賃貸　(3社)	50 （ ↗ ）	-50 （ ↘ ）	0 （ ↗ ）	0 （ →）	0 （ →）
貸家・貸間　(1社)	0 （ →）	-50 （ ↘ ）	0 （ ↗ ）	0 （ →）	0 （ →）
その他　(1社)	0 （ ↘ ）	-100 （ ↘ ）	-50 （ ↗ ）	-100 （ ↘ ）	-100 （ →）

●来期は悪化の見通し

来期は貸事務所・土地賃貸、貸家・貸間で横這い、建売・土地売買、不動産代理・仲介で悪化と予想しており、予想業況判断 DI は今期ﾏｲﾅｽ 4 からﾏｲﾅｽ 15 へ 11 ﾎﾟｲﾝﾄ悪化する見通しである。

調査員のコメント

・家賃収入に大きな変動はないが、コロナ禍での景気悪化が長引けば賃下げ要請など賃料に悪影響が出る。（貸事務所・土地賃貸）
・コロナの影響をほぼ受けず。個人顧客の消費マインドの低下により仲介業務については今後減少する見通し。（不動産代理・仲介）
・契約数は増加傾向だが、コロナの影響により工事の延期や面談、打ち合わせの長期化が発生したため売上入金については延期気味である。（建売・土地売買）



～MEMO～